IM and Presence Service と統合するための Cisco Unified Communications Manager の設定

- 統合前の Cisco Unified Communications Manager のユーザおよびデバイス設定のタスク リスト （1 ページ）
- プレゼンス グループ間登録パラメータの設定 （4 ページ）
- Cisco Unified Communications Manager の SIP トランク設定 （4 ページ）
- 必要なサービスが Cisco Unified Communications Manager で実行されていることの確認 （9 ページ）

統合前の Cisco Unified Communications Manager のユーザおよびデバイス設定のタスク リスト

IM and Presence Service と統合するように Cisco Unified Communications Manager を設定する前に、次のユーザおよびデバイス設定が Cisco Unified Communications Manager で完了していることを確認します。

表 *1 : IM and Presence Service* と統合する前に、*Cisco Unified Communications Manager* のユーザとデバイスを設定するためのタスク リスト

タスク	説明
ユーザ クレデンシャル ポリシーを修正する	この手順は、Cisco Unified Communications Manager リリース 6.0 以降と統合する場合にだけ適用されます。 ユーザのクレデンシャル ポリシーの有効期限を設定することを推奨します。クレデンシャル ポリシーの有効期限を必要としない唯一のユーザ タイプは、アプリケーション ユーザです。 Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Unified Communications Manager のユーザを認証するために LDAP サーバを使用している場合はクレデンシャルポリシーを使用しません。 **[Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] > [ユーザ管理（User Management）] > [クレデンシャル ポリシーのデフォルト（Credential Policy Default）]**
電話機を設定し、各電話機に電話番号（DN）を関連付ける	**[CTI からデバイスを制御可能（Allow Control of Device from CTI）]** チェックボックスをオンにして、電話が クライアントと相互運用できるようにします。 **[Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] > [デバイス（Device）] > [電話機（Phone）]**
ユーザを設定し、各ユーザにデバイスを関連付ける	ユーザ ID 値が各ユーザで一意になっていることを確認します。 **[Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] > [ユーザ管理（User Management）] > [エンド ユーザ（End User）]**
ユーザをライン アピアランスに関連付ける	この手順は、Cisco Unified Communications Manager リリース 6.0 以降だけに適用されます。 **[Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] > [デバイス（Device）] > [電話機（Phone）]**

タスク	説明
CTI 対応ユーザ グループにユーザを追加する	デスクフォン制御を有効にするには、CTI 対応ユーザ グループにユーザを追加する必要があります。 **[Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] > [ユーザ管理（User Management）] > [ユーザ グループ（User Group）]**
（任意）ユーザの directoryURI 値を設定する	IM and Presence Service ノードが Directories URI IM アドレス スキームを使用している場合は、ユーザの directoryURI 値を設定する必要があります。ユーザのディレクトリ URI 値は、Cisco Unified Communications Manager LDAP ディレクトリに同期化するか、または手動で更新できます。 LDAP が有効になっていない場合に LDAP を有効にする、またはユーザのディレクトリ URI 値を手動で編集する手順については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

（注） IM and Presence Service にアップロードする Cisco Unified Communications Manager Tomcat 証明書の SAN フィールドにホスト名が含まれている場合、それらのすべてが IM and Presence Service から解決可能である必要があります。IM and Presence Service は、DNS 経由でホスト名を解決できる必要があります。そうでないと、Cisco Sync Agent サービスが開始されません。これは、Cisco Unified Communications Manager サーバのノード名にホスト名、IP アドレス、または FQDN を使用するかどうかにかかわらず当てはまります。

（注） メニュー オプションおよびパラメータは、Cisco Unified Communications Manager リリースごとに異なる可能性があるため、リリースに適用される Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

関連トピック

LDAP ディレクトリ統合

プレゼンス グループ間登録パラメータの設定

あるプレゼンス グループのユーザが別のプレゼンス グループのユーザのアベイラビリティ情報に登録することを許可するには、プレゼンス グループ間登録パラメータを有効にします。

制約事項

プレゼンス グループ間登録パラメータを有効にできるのは、デフォルトの標準プレゼンス グループまたは新しいプレゼンス グループの登録権限が [システム デフォルトの使用（Use System Default）] に設定されている場合のみです。プレゼンス グループを設定するには、**[Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] > [システム（System）] > [プレゼンス グループ（Presence Groups）]** を選択します。

手順

ステップ 1 **[Cisco Unified CMの管理（Cisco Unified CM Administration）] > [システム（System）] > [サービスパラメータ（Service Parameters）]** を選択します。

ステップ 2 [サーバ（Server）] メニューから [Cisco Unified Communications Manager] ノードを選択します。

ステップ 3 [サービス（Service）] メニューから **[Cisco CallManager]** を選択します。

ステップ 4 [クラスタ全体のパラメータ（システム - プレゼンス）（Clusterwide Parameters （System - Presence））] セクションでデフォルトのプレゼンス グループ間登録に対して **[登録の許可（Allow Subscription）]** を選択します。

ステップ 5 **[保存（Save）]** をクリックします。

ヒント Cisco Unified Communications Manager で IM and Presence Service をアプリケーション サーバとして手動で追加する必要はありません。

次のタスク

Cisco Unified Communications Manager の SIP トランクを設定します。

Cisco Unified Communications Manager の SIP トランク設定

SIP トランクに設定するポート番号は、展開する IM and Presence Service のバージョンによって異なります。IM and Presence Service リリース 9.0(x) 以降では、SIP トランクにポート番号 5060 を設定します。

IM and Presence Service の SIP トランク セキュリティ プロファイルの設定

手順

ステップ 1 **[Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] > [システム（System）] > [セキュリティ（Security）] > [SIP トランプ セキュリティ プロファイル（SIP Trunk Security Profile）]** を選択します。

ステップ 2 **[検索（Find）]** をクリックします。

ステップ 3 [Non Secure SIP Trunk Profile] をクリックします。

ステップ 4 **[コピー（Copy）]** をクリックして、**[ファイル名（Name）]** フィールドにCUP トランクを入力してください。

ステップ 5 [デバイス セキュリティ モード（Device Security Mode）] の設定が [非セキュア] であることを確認します。

ステップ 6 [着信転送タイプ（Incoming Transport Type）] の設定が [TCP+UDP] であることを確認します。

ステップ 7 [発信転送タイプ（Outgoing Transport Type）] の設定が [TCP] であることを確認します。

ステップ 8 次の項目をオンにして有効にします。

- **[プレゼンスのSUBSCRIBEの許可（Accept Presence Subscription）]**
- [Out-of-Dialog REFERの許可（Accept Out-of-Dialog REFER）]
- [Unsolicited NOTIFYの許可（Accept unsolicited notification）]
- [Replacesヘッダーの許可（Accept replaces header）]

ステップ 9 **[保存（Save）]**をクリックします。

次のタスク

Cisco Unified Communications Manager の SIP トランクの設定に進みます。

IM and Presence Service の SIP トランクの設定

Cisco Unified Communications Manager クラスタと IM and Presence Service クラスタの間には、1 個の SIP トランクのみを設定します。SIP トランクを設定した後、**[Cisco Unified CMの管理（Cisco Unified CM Administration）] > [システム（System）] > [サービスパラメータ（Service Parameters）]** を選択することにより、Cisco Unified Communications Manager でその SIP トランクを IM and Presence PUBLISH トランクとして割り当てる必要があります。

[宛先アドレス（Destination Address）] フィールドで、次の形式の 1 つを使用して値を入力してください。

- ドット付き IP アドレス
- 完全修飾ドメイン名（FQDN）
- DNS SRV

高可用性が IM and Presence クラスタに設定されている場合、クラスタ内の複数のノードを識別するために、複数のエントリをドット付き IP アドレスまたは FQDN で入力する必要があります。高可用性を設定する場合は、DNS SRVは IM and Presence のクラスタに使用できません。

始める前に

- Cisco Unified Communications Manager の SIP トランク セキュリティ プロファイルを設定します。
- プレゼンス ゲートウェイの設定オプションのトピックを参照してください。

手順

ステップ 1 **[Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] > [デバイス（Device）] > [トランク（Trunk）]** を選択します。

ステップ 2 **[新規追加（Add New）]** をクリックします。

ステップ 3 [トランク タイプ（Trunk Type）] メニューから **[SIP トランク（SIP Trunk）]** を選択します。

ステップ 4 [デバイス プロトコル（Device Protocol）] メニューから **[SIP（SIP）]** を選択します。

ステップ 5 [トランク サービス タイプ（Trunk Service Type）] で **[なし（None）]** を選択します。

ステップ 6 [Next] をクリックします。

ステップ 7 [デバイス名（Device Name）] に「**CUPS-SIP-Trunk**」と入力します。

ステップ 8 [デバイス プール（Device Pool）] メニューからデバイス プールを選択します。

ステップ 9 ウィンドウの下部にある [SIP 情報（SIP Information）] セクションで、次の値を設定します。

a) [宛先アドレス（Destination Address）] フィールドに、ドット付き IP アドレスまたは DNS で解決可能で、IM and Presence ノードで設定された SRV クラスタ名に一致する必要がある FQDN を入力します。

b) マルチノード展開を設定した場合は、**[宛先アドレスはSRVです（Destination Address is an SRV）]** をオンにします。

このシナリオでは、Cisco Unified Communications Manager は名前（たとえば、*_sip._tcp.hostname.tld*）を解決するために DNS SRV レコード クエリを実行します。シングル ノード展開を設定する場合は、このチェックボックスをオフのままにし、Cisco Unified Communications Manager は名前（たとえば、*hostname.tld*）を解決するために DNS A レコード クエリを実行します。

DNS SRV レコードの宛先アドレスとして IM and Presence Service のデフォルト ドメインを使用することを推奨します。

（注） DNS SRV レコードの宛先アドレスとしてドメイン値を指定できます。指定されたドメインにユーザを割り当てる必要はありません。入力したドメイン値が IM and Presence Service のデフォルト ドメインと異なる場合、IM and Presence Service の SRV クラスタ名である SIP Proxy サービス パラメータが DNS SRV レコードで指定するドメイン値に一致することを確認する必要があります。デフォルト ドメインを使用する場合は、SRV クラスタ名パラメータの変更は必要ありません。

いずれの場合も、Cisco Unified Communications SIP トランクの宛先アドレスは DNS によって解決し、IM and Presence のノードで設定された SRV クラスタ名に一致する必要があります。

c) [接続先ポート（Destination Port）] に「`5060`」と入力します。
d) [SIP トランク セキュリティ プロファイル（SIP Trunk Security Profile）] メニューから **[非セキュアな SIP トランク プロファイル（Non Secure SIP Trunk Profile）]** を選択します。
e) [SIP プロファイル（SIP Profile）] メニューから **[標準 SIP プロファイル（Standard SIP Profile）]** を選択します。

ステップ 10 **[保存（Save）]** をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

ポート番号または IP アドレスを変更することで Publish SIP trunk SRV レコードの DNS エントリを修正する場合は、そのアドレスに以前にパブリッシュしたデバイスをすべて再起動し、どのデバイスも正しい IM and Presence Service の連絡先を指していることを確認する必要があります。

関連トピック

SIP パブリッシュ トランクのクラスタ全体の DNS SRV 名の設定
IM and Presence Service の SIP トランク セキュリティ プロファイルの設定 （5 ページ）
IM and Presence Service の SIP パブリッシュ トランクの設定
プレゼンス ゲートウェイの設定オプション

クラスタ外の Unified Communications Manager の電話利用状況の設定

IM and Presence Service クラスタ外にある Cisco Unified Communications Manager から電話利用状況を許可できます。クラスタ外にある Cisco Unified Communications Manager からのデフォルトの要求は、IM and Presence Service では受け付けられません。また、Cisco Unified Communications Manager の SIP トランクも設定できます。

TLS ピア サブジェクトを設定する前に、TLS コンテキストを設定する必要があります。

TLS ピア サブジェクトの設定

IM and Presence Service がクラスタ外の Cisco Unified Communications Manager から SIP PUBLISH を受け入れるようにするには、Cisco Unified Communications Manager が、IM and Presence Service の TLS 信頼ピアとしてリストされる必要があります。

手順

ステップ 1 **[Cisco Unified CM IM and Presence の管理（Cisco Unified CM IM and Presence Administration）] > [システム（System）] > [セキュリティ（Security）] > [TLS ピア サブジェクト（TLS Peer Subjects）]** を選択します。

ステップ 2 [新規追加（Add New）] をクリックします。

ステップ 3 [ピア サブジェクト名（Peer Subject Name）] フィールドに外部 Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスを入力します。

ステップ 4 [説明（Description）] フィールドにノードの名前を入力します。

ステップ 5 [保存（Save）] をクリックします。

次のタスク

TLS コンテキストを設定します。

TLS コンテキストの設定

TLS コンテキストを設定するには、次の手順を使用します。

始める前に

TLS ピア サブジェクトを設定します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理（Cisco Unified CM IM and Presence Administration）] > [システム（System）] > [セキュリティ（Security）] > [TLS コンテキストの設定（TLS Context Configuration）] を選択します。

ステップ 2 [検索（Find）] をクリックします。

ステップ 3 [Default_Cisco_UP_SIP_Proxy_Peer_Auth_TLS_Context] をクリックします。

ステップ 4 使用可能な TLS ピア サブジェクトのリストから、設定した TLS ピア サブジェクトを選択します。

ステップ 5 この TLS ピア サブジェクトを [選択された TLS ピア サブジェクト（Selected TLS Peer Subjects）] に移動します。

ステップ 6 [保存（Save）]をクリックします。

ステップ 7 OAMAgent を再起動します。

ステップ 8 Cisco Presence Engine を再起動します。

ヒント 次の順序で再起動し、変更を有効にします。

必要なサービスが Cisco Unified Communications Manager で実行されていることの確認

Cisco Unified Communications Manager サービスは、Cisco Unified Communications Manager ノード、またはIM and Presence Service ノードから表示、起動、停止できます。次の手順には、Cisco Unified Communications Manager ノードで従う手順が示されています。Cisco Unified Communications Manager サービスを IM and Presence Service ノードから表示するには、**[Cisco Unified IM and Presence の有用性（Cisco Unified IM and Presence Serviceability）] > [ツール（Tools）] > [サービスのアクティブ化（Service Activation）]** を選択します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager で、**[Cisco Unified Serviceability] > [ツール（Tools）] > [コントロール センター - 機能サービス（Control Center - Feature Services）]** を選択します。

ステップ 2 [サーバ（Server）] メニューから [Cisco Unified Communications Manager] ノードを選択します。

ステップ 3 次のサービスが実行されていることを確認します。

- Cisco CallManager
- Cisco TFTP
- Cisco CTIManager
- Cisco AXL Web Service（IM and Presence と Cisco Unified Communications Manager 間のデータ同期用）

ヒント Cisco Unified Communications Manager のサービスを有効にするには、**[Cisco Unified Serviceability] > [ツール（Tools）] > [サービスのアクティブ化（Service Activation）]** を選択します。